

そんな体で本当に走れるのか。練習についていくと日々の練習は8km以上。昔から一番の趣味がマラソンだったという表さん。ギラン・バレー症候群を発症したのは59歳のときでした。重症度は6段階の5。かなり重いものでした。

7か月間、人工呼吸器を付けて寝たきりの状態。「体のどこにもまったく力が入らず、まぶたを閉じることもできなかった」といいます。当初の診断はこのまま寝たきりかよくて車いす生活。しかし、体が覚えているかもしれないと藁をつかむ思いでリハビリを始めます。ベッドのリクライニング機能を使って上体を起こすと頭に激痛が走ります。1分ずつ時間を増やしていき、車いすを蹴るようにして動かせるようになると車いすを降り、自分で押して歩く練習をしました。足が一步前に出ると「生きたい」という希望につながったといえます。

その後はまさに奇跡ともいえる回復ぶり。発症から6年半、65歳の時、東京マラソンを完走します。タイムは4時間23分58秒。そのときかけていた襷には「感謝 生きています」の言葉が書かれていました。

その後も挑戦は続き、10レースものマラソンを完走してきた表さんが打ち立てた目標がウルトラマラソンでした。朝4時にスタートし100kmを14時間以内で走らないといけないうという過酷な大会で、途中足を痛めながらも見事完走。タイムは制限時間をわずか2分超えた14時間2分でした。表さんはできなくなったということに関して嘆きません。1つ1つできることに関して感謝しているそうです。そしてその力というを感じていると思います。

実は、右足の裏は麻痺しているため一切感覚がないんだそうです。しかもマンホールなどがあると転んでしまうそうです。そのため毎年骨折しています。だからこそ表さんは可能性に賭けたいと言っています。可能性は自分を信じることから始まります。自分を信じること。あきらめず努力すること。何においても大事なことと思います。

念じて行う

鎌田善政社長

新年度に入って1か月が過ぎました。梅雨時期ではありませんが、例年より天気の良い日が多くて現場の進捗は進みやすい天候にあります。安全対策と共に熱中症対策等をしっかりと行って、早期に着工、早期に完了できるように気を引き締めて頑張ってください。

仕事とは絶対に事故が起こらないように念じて行えば、事故が起こらない事が多い。ガソリンスタンド等においても、来られたお客様の車に給油や洗車を行う時に絶対に事故がなく、快適な運転ができますようにと念じて行えば良い方向に向う。会社車両や個人の車両についても掃除をして、常にキレイな状態を保とうとすれば様々なトラブルも起きない事が多い。7月は笑顔で大きな声の挨拶と、徹底した掃除を心掛けて各自が取り組んで下さい。

商売は基本的にお客様を喜ばせる事を考えて行えば必ず結果はついて来ます。複写ハガキの活用を常日頃から皆さんに呼びかけておりますが、お客様へ感謝の気持ちを伝える良い方法ですので改めて実践して下さい。新年度は更にレベルを上げた集団となるように頑張ってください。

可能性を信じて努める

鎌田安典副社長

今回は6月に100kmを走るウルトラマラソンを走り切った表光代さん(70歳)の話をご紹介します。100km走るだけでもすごいのですが、実は表さんはギラン・バレー症候群という病気の後遺症で手と足が麻痺した状態の中、走り切りました。この病気、発症する割合は10万人に1人という珍しいものです。

